

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677400147
法人名	医療法人社団 春陽会
事業所名	グループホーム春光苑
訪問調査日	平成 21 年 12 月 5 日
評価確定日	平成 22 年 2 月 1 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4677400147		
法人名	医療法人社団 春陽会		
事業所名	グループホーム 春光苑		
所在地	鹿児島県肝属郡肝属町新富536-2 (電 話) 0994-68-8070		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年12月15日	評価確定日	平成22年2月1日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 21 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.75

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円 (水道光熱費込)	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.78 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団春陽会中央病院・真愛会上園醫院・西の原歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から5年が過ぎたホームでは、母体の医療法人、協力病院、訪問看護ステーションとの医療連携を活かし初めての看取りを行なっている他、自治会の協力を得て、うどん打ちの地域交流が初めて行なわれるなど、ホームの課題としている内容を、職員の努力と話し合いで一つづつクリアしていく真摯な姿勢が窺える。家族の面会も多く、利用者の表情も明るく、利用者同士が支えあう姿や職員を労う言葉に、日頃から利用者の思いに寄り添い心のふれあいを大切にしたケアを実践している職員の思いが感じられる。職員の研修も充実し更なるサービスの質の向上が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題はなかったが、自己評価の隣近所とのつきあいで、積極的に交流できるようにしたいという課題を意識し、手作りのちまきやお餅を配り交流のきっかけ作りを行なうことで近所の方から野菜を頂くようになるなど、交流を深められるように努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎日の日勤帯の職員3名が、1枚の評価表に意見を出し合い記入する方法で、半月近くかけて行なった後に管理者がまとめている。職員はケアの振り返りの機会と捉え、入浴を隔日から毎日行い利用者の人数を少なくし、ゆとりを持って支援できるようにするなど改善に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は家族代表、地域代表、行政代表、法人関係者が参加して2ヶ月に1回開催している。入居者の状況、行事活動報告、行事予定などの報告後に意見交換が行なわれている。地域代表から地域の行事情報を得たり、行政からインフルエンザ対策の助言、消防訓練のアドバイスを受けるなど討議内容を活かしたサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が苦情や意見を表せる機会は、運営推進会議と年3回の家族が集まる行事、面会時、ホームや行政の相談窓口等である。家族の面会が多いため、職員は意見を引き出せるように配慮している。出された意見や要望は、受付簿を作り職員と話し合い検討し運営に反映させると共に家族にも結果を報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域行事の十五夜や奉仕作業に参加している。今回初めてうどん打ちを企画し、自治会の回覧板を通して参加を呼びかけ地域の方に参加してもらったり、消防訓練に地域の消防団の方にも参加してもらうなど地域との連携も深めている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「相手の気持ちを大切に」「ゆとりある雰囲気を大切に」「地域の方と交流をはかり、心と心のふれあいを大切に支援させていただきます」という理念に、職員と話し合い作り替えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が日々のケアにおいても理念が意識できるように、ホールと事務所に掲げると共に、申し送り時に唱和している。職員は、利用者をせかせるような言葉を使わないように心がけ、行事の参加を地域の方に呼びかけるなど理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、奉仕作業や流鏑馬の見学、町の運動会などに参加している。事業所での行事、花見、餅つき大会やそば打ちなどには地域の方に参加してもらっている。中学校の職場体験、踊りや楽器演奏のボランティアの受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について職員は理解しており、ケアの振り返りの機会と捉えている。自己評価を通して、入浴の支援を毎日行うことで人数を抑え、ゆったりと支援できるように改善するなど評価を活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催し、利用者状況、行事活動報告、行事予定などの報告後、参加者の意見交換が行われている。地域行事の情報を得たり、消防訓練のアドバイスなどを運営に反映させ、サービスの向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホーム春光苑

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者と協働して行なっているサポーター養成講座の講師として、管理者が講座を受け持っている他、地域包括支援センター職員とは、連携をとり情報交換を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の苑便りには、利用者の暮らしぶりの写真、行事案内、職員異動などを載せ、遠方の家族には、出納帳のコピーと合わせて送っている。利用者個人の状況は6ヶ月ごとに担当者が手紙で報告している。家族の面会が毎日のようにあるため、健康状態の報告や金銭出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見を表せる機会は、行事で集まる家族会や運営推進会議等であるが、面会時や電話で家族の意見が引き出せるように配慮している。出された意見や要望は、受付簿に記入し職員と話し合い検討し運営に反映させると共に家族にも説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の法人内異動は行わないようにしているが、グループホーム合同でのレクレーションや行事を行うことで顔馴染みの関係を築き、利用者のダメージを抑えるようにしている。管理者は離職を防ぐ工夫として、職員とのコミュニケーションをとることを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て毎月1回の研修を行っている他、介護の経験年数に応じた段階的な研修が行われるように計画されている。外部研修に参加した職員より伝達講習が行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会、肝付地区の3ヶ所のグループホームの会(オレンジリング)に加入し、勉強会や交流会に参加している。同法人のグループホームと2ヶ月～3ヶ月に1回、職員を交替して研修を行うことでそれぞれの良さを取り入れながらサービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人と家族に面会に来てもらい、ホームの雰囲気を覚えてもらうようにしている。在宅からの場合は、こちらから訪問し情報を得ると共に、顔馴染みの関係を築いている。入居後は不安感が増さないように職員は寄りそうことを心がけ、家族の面会を多くしてもらうなど協力をもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごししながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を発揮できる、そば打ち、餅つき、団子作りでは、その技を覚えてもらい職員は感謝の言葉を伝えている。職員が忙しい時などは、茶碗洗いを手伝ってくれたり、「きばいやいなあ」と励ましてくれるなど、支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、思いの把握の仕方の勉強会を行い職員の意識付けをしている。利用者自身から思いを伝えられない場合は、表情や言動、視線の行き先など観察力を駆使して思いの把握に努めている。気づきは申し送りノートに記録すると共に、直接計画作成担当者に伝えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に必要な関係者が一同に揃うことはないが、家族、職員、医師、看護師、薬剤師などそれぞれが、本人のために必要な意見を出し合い介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	申し送りで変化がある場合は、ケアカンファレンスで話し合い、退院時など状態変化が見られる時は、家族や必要な関係者の意見を参考にしながら見直している。。状態に変化がない時には6ヶ月で見直しを行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、週1回の訪問看護師による健康管理、かかりつけ医による月2回の往診などが行われている。また、病院受診の送迎、台風後の自宅確認や洋服の入れ替え時の一時帰宅支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診は家族にお願いしているが、法人の医療機関の場合は職員が受診支援している。適切な医療が受けられるように情報提供すると共に、家族には受診内容の報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応についての指針を作成し家族に説明している。今年は2件の看取りを行なっている。看取りを行なう上での職員の不安材料をアンケートより拾い上げ、訪問看護師や医師からのアドバイスを受け問題を解決し支援に臨んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所としてプライバシーについては重要視しており、勉強会も行っている他、職員より気づいた内容を書き出してもらいそれについての話し合いを重ね職員の意識向上を図っているため言葉遣いも改善されてきている。記録等も保管場所を決めて管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、起床、就寝、レクリエーション参加など本人の体調と希望を尊重しながら支援している。買い物に行かれる方や折り紙作品を居室で作られる方、新聞をゆっつくりと読まれる方などそれぞれのペースで生活している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて皮むきや茶碗洗いなどを手伝っている。食事前はテレビを消し利用者が中心になり口腔体操を行い食事への意識を高め、食事中はおしゃべりをせず集中し終わるとみんなでガヤガヤと会話が始まる。職員は話し合いながら利用者が毎月座るテーブルの位置を替え、全体のバランスをとる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できるようにしている。時間は午前中となっているが、希望があれば午後も対応できる。利用者同士も仲が良く、一緒に入浴しながらわいわい楽しんでいる。入浴剤を入れたり、足拭きマットを一人ずつ交換し清潔さを保ち、入浴を楽しんでもらえるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできる力を発揮する場面作りを行い、カレンダーめくり、カーテンの開け閉め、居室掃除、テレビ拭きなどの役割をもちあわせている他、利用者の好きな事や得意な事、折り紙の飾り物作り、ちらしの箱作り、お花いじり、ぬりえや計算問題のレクリエーション、そば打ちや団子作りなど楽しみ、気晴らしの支援となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気を見ながら、車椅子の方も散歩やドライブ、園庭でのお茶などを楽しんでいる。台風後の自宅を見に行ったり、かかりつけ医のセラピーに行くなど希望に沿って外出できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は玄関にセンサーをつけて見守りをしていたが、外出傾向にある方は落ち着いてこられたため、転倒防止のため居室にセンサーを移している。利用者一人で外出した場合は、法人職員の協力が得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いでの避難訓練には、地域の消防団の協力も得られている。自主訓練は他の棟と一緒に年4回行い、消火器の使い方、AEDの訓練、救命救急の講習も受講している。	○	さまざまな想定での消防自主訓練を行い、職員の防災意識を高めているが、避難口が玄関横にあるだけなので、ベランダから車椅子でも庭に行ける様にスロープが作られればより安全が確保されるのではないかと思います、検討されることを期待します。

鹿児島県 グループホーム春光苑

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量はチェックし記録している。水分は飲む量の把握はされているが記録は医師の指示があった方のみ行なっている。法人病院の栄養士による献立であるためバランスについては確認している。食事形態も利用者の状態に応じて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は高く青空に雲が描かれ明るい。ホールにはクリスマスツリーが点滅、壁にも一緒に作ったサンタクロースの壁飾りが貼られ季節感を出している他、利用者が折り紙で作った飾り物、ドライブの写真などが飾られている。玄関や廊下、ホールにもソファが置かれ、脱衣所も広いので椅子を置き気軽に休めるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室が6部屋と洋室が3部屋あり、ベット、ダンス、テレビが備え付けで、利用者の大切にしている写真や観葉植物、使い慣れた布団や時計、鏡などが持ち込まれ居心地良く過ごせるように配慮している。ドアには、利用者の歩行の状態を記した絵が貼られ、災害に備えた準備がされている。		